
 学内活動報告

医療看護研究24 P.29-36 (2019)

第3回 臨地実習指導者研修会報告

The Third Clinical Instructor Training Program 2018

高谷 真由美¹⁾
TAKAYA Mayumi原田 静香¹⁾
HARADA Shizuka樋野 恵子¹⁾
HINO Keiko湯浅 美千代¹⁾
YUASA Michiyo野崎 真奈美¹⁾
NOZAKI Manami村岡 宏子¹⁾
MURAOKA Kouko幅下 貞美²⁾
HABASHITA Sadami

要旨

平成30年度8月～12月にかけての3日間、第3回目の臨地実習指導者研修会が開催された。今年度は順天堂大学関連病院から47名の受講者があり、4つの講義と5つの演習・グループワークで構成されたプログラムを実施した。昨年度までの成果と課題を参考に、グループワークと事後課題では、具体的なアクションプランに基づく実践報告を取り入れ、3回の演習が継続的に深まること意図した内容で企画した。研修終了後のアンケートおよび実習指導者としての自己評価ツールでは、内容の理解度や満足度は概ね高く、受講後の実習指導者としての自己評価も上昇していた。プログラム終了後に提出されたレポートにおいては、グループワークや課題への取り組みを通して学びを深め、指導者として学生を受け入れる環境づくりのために自分ができることなどについて具体的な行動プランや自己研鑽について述べられており3日間のプログラムの目的・目標が確実に達成されていたと考えられた。

キーワード：臨地実習指導者研修会、リフレクション、実践報告

Key words：Clinical instructor training program, reflection, practice report

I. はじめに

臨地実習指導者研修会は、順天堂附属6病院で実習指導に関わる看護職者の教育力や実習指導能力を高め、実習施設と医療看護学部の連携や協働に資する人材を育成する目的で平成28年度から実施されている。近年臨床における実習指導者の役割は非常に重要になっており、その教育的役割を果たすためには、十分な学習機会が必要であると言われている。順天堂大学は、

6つの附属病院の臨床指導者と教員が従来から密接に連携をとりながら協働し、より充実した学生の実習指導を目指している。その環境を最大限に活かしながら、より参加者の学習ニーズに沿った研修プログラムを作成・提供できるように検討を行っている（原田ら2018）。3回目の実施となる平成30年度は、前年度までの内容に加え、研修当日だけではなく参加者各自が継続的に自己の課題解決に向けた取り組みを行い、実践結果を報告しながら実習指導者としてのリフレクションを行う、という新たな試みを取り入れて実施した。

1) 順天堂大学医療看護学部

Faculty of Health Care and Nursing, Juntendo University

2) 順天堂大学医学部附属順天堂医院

Juntendo University Hospital

(May 7, 2019 原稿受付) (Jul. 23, 2019 原稿受領)

Ⅱ. 研修会の概要

1. 運営組織

本研修会の企画・運営は、順天堂大学医療看護学部FD委員会の下部組織である、臨地実習指導者研修会部会が行っている。本学部および附属6病院から部会委員と協力者が選出された。

2. 目的・目標

本会の目的・目標は昨年度から変更はなく、表1の通りである。

3. 受講対象者

受講対象者は、関連病院に所属する5年以上の看護師で、実習指導に現在または今後携わる可能性のあ

表1 臨地実習指導者研修会の目的と到達目標

<p>1. 臨地実習指導者研修会の目的</p> <p>臨地実習施設等において、学生の実習指導に関わる看護職者に必要な能力を高め、臨地実習施設と医療看護学部の連携および協働に資することを目的とする。</p>
<p>2. 到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨地実習指導の基礎となる教育的役割について理解する。 2) 看護基礎教育における臨地実習の位置づけと目的を理解する。 3) 臨地実習の内容と効果的な指導方法を理解する。 4) 実例を通して臨地実習指導の実際を理解する。 5) 臨地実習指導における自己の課題および指導者像を明確化する。

表2 2018年度 臨地実習指導者研修会 エントリーシート

所属病院			
氏名			
性別	<input type="checkbox"/> 女性 <input type="checkbox"/> 男性	年齢	歳
職種	<input type="checkbox"/> 保健師 <input type="checkbox"/> 助産師 <input type="checkbox"/> 看護師	看護職歴	年
所属部署			
主な診療科			
持っている看護系資格 (例: ○○専門看護師、○○認定看護師、○○療養指導士)			
現在の役職・担当 (当てはまるものすべてに☑)		就任歴	
<input type="checkbox"/> 主任		年 月 日	
<input type="checkbox"/> 学生教育担当		年 月 日	
<input type="checkbox"/> チームリーダー		年 月 日	
<input type="checkbox"/> その他 []		年 月 日	
キャリアラダー	レベル <input type="checkbox"/> I <input type="checkbox"/> II <input type="checkbox"/> III <input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> V		
プリセプターまたは新人教育の経験	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	ありの場合、() 回	
学生指導において担当している主な実習科目 (当てはまるものすべてに☑)			
<input type="checkbox"/> 基礎看護学実習 <input type="checkbox"/> 分野別実習 <input type="checkbox"/> 統合実習 <input type="checkbox"/> 助産学実習			
臨地実習指導者研修会を受けようと思ったきっかけや動機を教えてください。			

裏面もあります

<p>あなたが臨地実習指導者の役割を担う上で、課題であると思うことはどんなことでしょうか？ 実習環境のこと、教員との連携、ご自身が感じていることなど、具体的に述べてください。</p>
<p>この研修を受講することで、あなたはどのようなことを学ぶ必要があると考えていますか？ できるだけ具体的に述べてください。</p>
<p>あなたは今まで、後輩や学生を指導する立場として、どのように学んできた経験がありますか？ 学習内容、学習方法、学習に向かうご自身の態度、あるいは学んだ経験がない等、具体的に記載してください。</p>

以上

る者である。今年度は、参加前に自己の課題や参加動機を明確にしてもらうためと、グループを作成する際の参考にする目的で、エントリーシート(表2)を作成した。参加者はエントリーシートに記入後、看護教育課に提出し、それを取りまとめたものを参加者情報として研修会部会事務局と共有した。今年度は、47名のエントリーがあった。

4. プログラム内容

3日間のプログラムにおける講義とグループワーク内容は表3の通りである。

講義は、大学での看護基礎教育および実習指導、指導者の教育的役割、実習評価についてという実習指導に関する基本的な内容を学習できるように構成した。グループワークは、1回～3回を継続的に深めていく内容(図1)とした。また、プログラムの効果を客観

的に評価するためのツールとして、1回目と3回目には中山らの「教育ニードアセスメントツール—実習指導者用—」を使用した。ツールの使用に関しては著作権保有者の許諾を得ている。

Ⅲ. 実施内容と研修成果

1. 講義

講義は、3回のプログラムを通して4つ行われた。講義1～4の内容はすべて参加者からは概ね好評であった。エントリーシートに記載された受講動機の中には、大学生の実習指導を行うにあたって、大学教育における看護教育や臨地実習について学んでおきたい、というものも多く、大学教育に関する講義にもっと時間をとってほしいという意見もみられていた。参加者の基礎教育背景や実習指導歴には幅がみられたが、大学教育を受けている受講者であっても、教育的な位置

表3 平成30年度 臨地実習指導者研修会プログラム

平成30年8月23日(木)

【1日目：看護学教育と臨地実習指導の基礎・実習指導のリフレクション】

研修内容	時間	担当講師
講義Ⅰ：看護学教育の基礎 大学教育の概要 学生の看護実践能力の評価	10:05-11:05	野崎真奈美
講義Ⅱ：臨地実習指導の基礎 臨地実習の位置付け 実習指導者に期待すること	11:10-12:10	村岡宏子
演習Ⅰ：実習指導リフレクション 臨地実習指導や部署での教育的役割等個々の経験をリフレクションし自己の課題を見出す	13:00-15:00	医療看護学部・ 運営担当教員
リフレクション経過発表会 各グループの発表	15:10-15:40	高谷真由美
1日の研修内容の評価	15:40-16:00	高谷真由美

平成30年10月27日(土)

【2日目：臨地実習における臨地実習指導者の教育的役割とは・課題達成のための実践報告】

研修内容	時間	担当講師
演習Ⅱ：自己の課題達成のための実践報告とリフレクション①〈グループワーク〉 1回目終了後の自己課題に基づき、実践したことを各自発表しグループメンバーがコメントする	10:00-11:15	原田静香 他
講義Ⅲ：臨地実習における実習指導者の教育的役割	11:20-12:00	仙石妙子(順天堂大学練馬病院)

【2日目午後：医療看護学部実習委員会開催】

研修内容	時間	担当講師
挨拶	13:00-13:10	実習委員長・学部長
講演 「指導者としてのモチベーション」	13:15-14:00	水野基樹(スポーツ健康科学部 先任准教授)
グループワーク：実習指導者としてのモチベーションを維持するためには	14:10-15:40	医療看護学部・実習委員会

平成30年12月15日(土)

【3日目：臨地実習における評価とは・実習指導者としての学びと今後の課題】

研修内容	時 間	担当講師
講義Ⅳ：臨地実習における評価とは 実習記録指導や実習評価について実例を示しながら説明	10:10-11:10	湯浅美千代
演習Ⅲ：実習記録指導と評価について〈グループワーク〉 実習記録指導・実習評価についての疑問を提示し、話し合う	11:20-11:50	湯浅美千代・高谷真由美 他
演習Ⅳ：自己の課題達成のための実践報告とリフレクション②〈グループワーク〉 2回目終了後からの状況を報告しリフレクションする。	12:50-14:15 (演習Ⅳ、Ⅴの時間配分はグループごとに変更可)	医療看護学部教員・ 順天堂関連病院教育担当者
演習Ⅴ：実習指導者としての学びと課題〈グループワーク〉 3回の研修を通して学んだことのつながりを考えて簡条書きにまとめ、今後の方向性を見出す	14:30-15:15 (演習Ⅳ、Ⅴの時間配分はグループごとに変更可)	医療看護学部教員・ 順天堂関連病院教育担当者
GW経過発表会・まとめ グループ発表と参加した教員・看護部教育担当者からのコメント	15:20-15:50	高谷真由美
修了証授与式 修了証書の授与と研修全体のコメント	16:00-16:20	工藤学部長
研修内容の評価 客観的指標を用いた実習指導者としての自己評価用紙記入・1回目との比較	16:20-16:30	高谷真由美

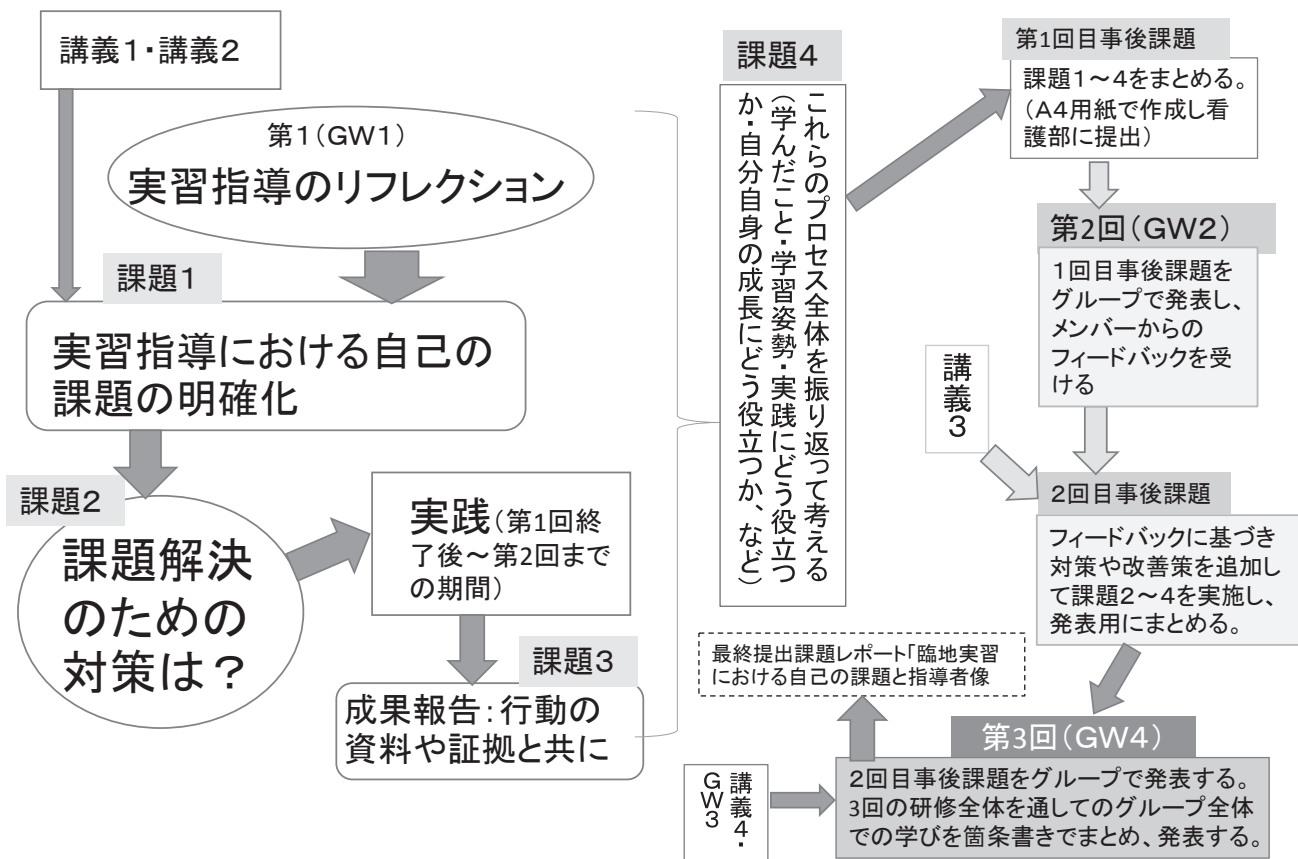


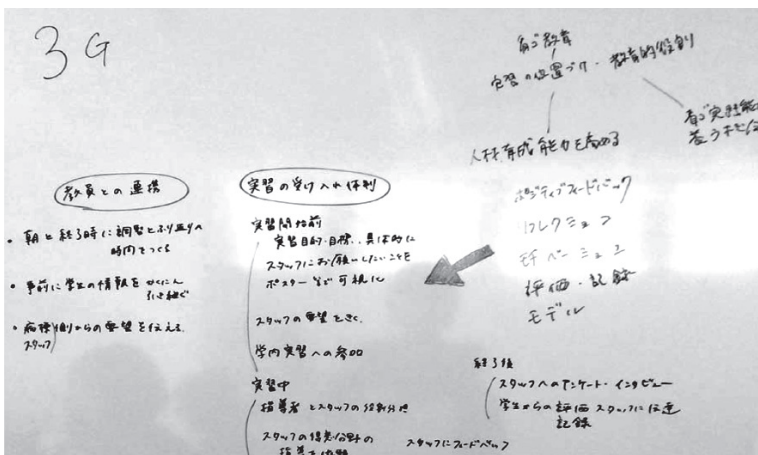
図1 講義・グループワークと事後課題の流れ

づけや臨地実習に関して、系統的に学ぶ機会が少ないことから、大学における看護教育の位置づけを理解することは、本研修会の意義の1つでもあったと考えられた。臨地実習指導の基礎や実習指導者の教育的役割についての講義は、グループワークでのリフレクションや、そこで話し合った内容の裏付けになるものであり、受講者にとっては基本的な知識の再確認と共に自分が指導者としてできていることと、課題となることを明確にする意味があったと思われる。3回目には実習指導における評価とは、という講義を具体的な学生の事例や教員が行うフィードバックコメントの例を示しながら行った。学生を適切に評価することが、個性に合わせた実習指導につながっていくことが豊富な事例を通して理解でき、その後グループで討論し疑問点を挙げてもらったことで、評価についてより理解が深まっていた。

2. グループワークと事後課題について

グループは、エントリーシートを参考に、所属病院、臨床経験、実習指導歴、などが偏らず均等になるようにし、さらに参加動機や現時点で考える課題などが類似するように6~7名で構成した。3回を通して、運営担当者はファシリテーターの役割をとらずにグループの巡回をして進行状況の確認や質問に答えるのみとし、進行はグループで決めた方法で実施してもらった。1回目の午後のグループワークは、実習指導あるいは臨床での教育的役割の経験をリフレクションし、それぞれの課題を明確にすることを目的に実施した。ほとんどのメンバーは初対面であるため、自己紹介、各自の現状発表からスタートし、共通の課題について具体例を出し合って深め、課題解決方法を討議し合った。

2回目、3回目のグループワークでは、それぞれが実践してきたことを中心に発表する内容であり、2回目で受けたフィードバックを基に、実践・改善したことを3回目に報告する、という継続性のあるものであったことから、メンバー間の相互理解の深まりとともに、より実践につながる有意義な討論が行われていた。グループワーク時間が限られていたことから、当初3回目に計画していたグループでのコンセプトマップの作成を簡条書きで学びをまとめる、という方法に変更した。作成した発表用紙の1例は図2である。全てのグループが各自の課題と対策についてグループ全体で共有したことをスムーズに言語化しまとめられていた。



- 部署全体で関わる。指導者のサポーター。
 - 実習生がくつろぎを事前にアナウンス。
 - 指導士がどこまで可容認か。
 - 夜や持ち帰りスタッフへ業務を依頼。
 - 双方のメンバーシップを高める。承認する。
 - 学生のメンバーシップが高まると指導者のメンバーシップも高まる。
 - 業務を依頼し実施してくれたスタッフへフィードバック。
 - ほめてもらうことも必要。
 - 成長は待つことも大切。忍耐すべし。
 - 結果を出すまで求めるのではなく、何ヶ月も確実に関わる。
 - おさめたいこと。
 - 個別小学生を生かす。
 - 学生の個性を大切にしたい。
 - 教員との連携
 - 統一した方針がとれるように、教員とコミュニケーションをとって指導者の方向性をそろえる。
 - 互いに評価しあっている。
 - 自分も評価されていこうと思える。結果は自分の内カヤカバ反映させていこうと思える。
- 看護師のモデルとなる存在となるように指導を行っていく。

図2 3回の研修を通してのグループでの学び発表資料

3. 教育ニードアセスメントツールによる自己評価

今年度は、各回終了後に記入してもらい、内容に関するアンケートに加え、研修成果を客観的に自己評価するためのツールを1回目と3回目に使用した。使用した「教育ニードアセスメントツール-実習指導者用-」は、実習指導者が自己の役割遂行に必要な教育ニードを測定するために開発されたツールであり、7つの大項目と35の小項目で構成されている。実習指導者としての役割を適切に果たしている

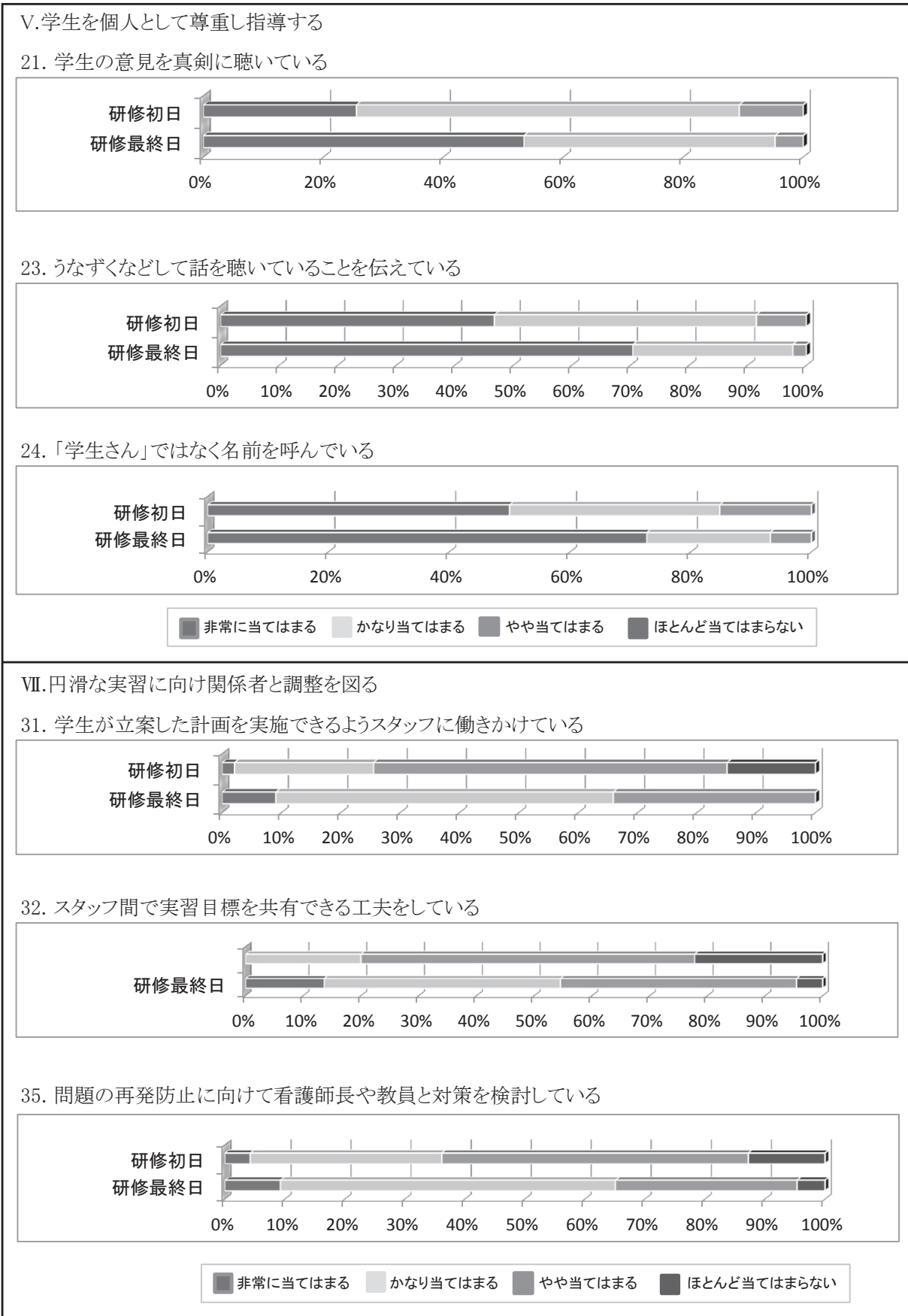


図3 教育ニードアセスメントツールー実習指導者用ー 初回と3回目の変化

状態から現在の自分はどの程度乖離しているのかを把握することができる(中山ら 2015)。1回目と3回目の変化を一部抜粋して図3に示す。この結果から、「V. 学生を個人として尊重し指導する」、「VI. 多忙であっても学生に丁寧に対応する」に関しては、1回目から比較的高い評価である受講者が多かったことがわかる。初回に全体的に低い評価が多かった項目「VII. 円滑な実習に向け関係者と調整を図る」では、3回目に大きく評価が改善していた。実習指導者として、教育環境を整えることや、関係者との調整を課題に挙げ、実践報告を行った受講者が多かったことから、この項目に関して、意図的に取り組み、改善できたことを自覚できていたと思われる。

4. 最終レポートからみる実習指導者としての課題と指導者像

受講者が最終レポートに記載した内容を質的記述的にまとめたものを表4に示す。3回の研修会、および期間中に実践した自己の課題解決へのとりくみを振り返り、今後どのような実習指導者あるいは教育的役割をどのように果たしてきたいかが述べられている。カテゴリーとして挙げられている項目の特徴として、実習指導における技術的な面や役割を1つ1つ挙げるのではなく、教育的役割を遂行するための基本的な姿勢や、リフレクションや自己研鑽の必要性などに言及しているもの、実習指導者に求められる能力は実習指場面だけでなく、病棟全体の看護そのものに影響するも

表4 最終レポート「臨地実習指導における自己の課題と指導者像」のまとめ

グループワークによって学びが深まった	他のメンバーの意見から自身の視野が広がった 他部署で同じ役割を持つメンバーと思いを共有できた 同じ思いを持つ者がいることを知りモチベーションが高まる
学生への関わり方や指導方法について振り返り、指導者としての姿勢を考えることが出来た	学生が馴染めるように、話しかけてもらいやすい雰囲気での 学生の教育背景を理解して関与する 学生の立場を理解した上で指導者となり得ると知った 学生へポジティブフィードバックで関わる 記録から学生を知ることの重要性に気づいた 技術だけではなく看護への思いを伝えられる指導者になりたい 指導後は自分自身のリフレクションを続けていきたい 指導者の役割を果たすことは自身の成長につながる事に気づく 指導者の役割は学生と患者・スタッフ・他職種との連携を調整することにあると気づいた 学生にとって理想のロールモデルになりたい 学生と対等かつ平等に接するよう心掛ける 指導者としての信念を柔軟に変化させながら、自己研鑽を続ける 指導者自身の実習に対する目標やビジョンを明確にする 学生の成長を焦らずに待つことの大切さを知った 学生の個性を尊重し、1人の人間として興味を持って接する 評価はお互いにされているということに自覚を持つ 学生の評価は結果のみにとらわれず、過程にも着目する
指導教員の役割や協働の必要性を知る	教員とお互いに評価しあい、リフレクションをしていきたい 教員との連携を密にして学生を理解する 教員と連携し、役割分担や時間管理をしていく必要性を認識した 教員と協働し、学生個人に合わせた実習目標の設定・評価をしたい
事後課題へ取り組み、自身の学びを深めることが出来た	事後課題での取り組みを学生や後輩指導に活かしていきたい 事後課題に取り組み、自身の学びにつながった 事後課題を行うために、積極的に病棟スタッフへ働きかけた 事後課題のためにスタッフと協力して実習指導体制を再構築した
病棟で学生実習を受け入れる環境づくりをする	スタッフにもキャリアラダーに合わせた学生実習の役割があって良い 学生が病棟スタッフとコミュニケーションしやすい雰囲気づくりをする 学生を病棟スタッフの一員として迎える 実習に来る学生の特徴を事前に病院スタッフに伝えて受け入れる準備をする 病棟スタッフへ学生実習の概要を周知する スタッフに学生指導の楽しさや意義深さを伝える
部署全体のスタッフ教育の改善に役立てたい	学生からの実習評価を病棟スタッフと共有していく 学生と共に学び合うためのカンファレンスの運用を見直す 実習指導を通じて新人育成や職場環境の改善を行いたい 学生指導は指導者だけではできないと知り、1スタッフとしても積極的に関わっていききたい キャリアラダー別に学生指導のできることを明確に挙げ、全員で学生を育成する意識を持てるようにしたい

のである、というような教育的役割の本質に触れる内容が多いことが特徴であった。3回のグループワークと自己の課題改善への取り組みを通して、継続的に1つの内容を深めていくことで、自ら行動を変えることによる影響とフィードバックの重要性を感じ取っていたことがわかる。

5. 企画・運営上の課題

今年度新たな試みとして、3回のプログラムの利点を活かして、グループワークと事後課題に継続性を持たせ、自己の課題改善に取り組み、その実践を報告しながら深めていくという内容で計画した。研修会の当日と事後課題のレポート作成だけではなく、その間に実践を行うということで、様々な意味で受講者への負担は増えたと思われるが、グループワークで経験を共有することで、成否にかかわらず自分の試みや経験が学びになっていったと考えられる。リフレクションの学習サイクルの基本は、アクションプランに基づく経験を振り返り、他者に説明し感情を表出してフィードバックを受けてそれらを分析して新たなアクションプランにつなげるというものである(田村ら 2017)。したがって、実習指導者としてのリフレクションを深めていくには、実践は不可欠であり、今回の研修でもリフレクション学習が有効に進められていたと考えられる。その一方で、2回目に向けての課題に取り組んだ時間に対して、グループワークでの発表時間が十分とれず、時間が足りないと感じていた受講者が多く、講義・グループワークの時間配分、フィードバック方法には更なる工夫が必要であった。実習指導全体や実践に役立つような学習をしたいという意欲の高い受講者が多いため、講義1つ1つについて、もっと聞きたかった、時間が不足している、という意見もみられている。エントリーシート、アンケート、アセスメントツールを活用しながら、基本的な事項はおさえつつも受講者のニーズに応えられるように講義内容と構成を考慮していく必要がある。

3回の全プログラムに参加できた受講者にのみ、修了証を発行しており、昨年度までは、途中やむをえず欠席した場合は、次年度不足した回あるいは講義のみを受けることによって修了証が発行されることになっていた。グループワークが継続的な内容になっていたことから、昨年度の未修了者の参加について検討が必要となった。今年度までは欠席回の再受講を可能とし

たが、次年度からは未修了者は3回を通して再受講が必要ということに変更し、受講者全体に通知した。

IV. まとめ

平成28年度から3回コースのプログラムとして開催され、3回目をむかえた臨地実習指導者研修会は、内容と構成を少しずつ変えながら、その目的と到達目標を確実に達成することができている。1、2回目の受講者からも、本研修会に参加することで、自施設以外の仲間ができ、悩みの共有や新たな視点を得られること、学部教員との相互理解ができること、など多くの意義が述べられていたが、3回目の受講者からも同様の感想が語られていた。実習指導者の臨床における役割や実習指導および看護教育の基本的な内容を学びつつ、順天堂大学の関連病院と医療看護学部が協働で企画・開催する研修会であることの利点を活かし、より有意義なプログラムを受講者と共に創っていくことを目指したい。

V. 謝辞

第3回臨地実習指導者研修会の開催にあたり、ご協力いただきました工藤学部長、本研修会部会委員、伊藤隆子FD委員長、FD委員会委員、附属6病院看護部長はじめ看護部関係者の皆様方に感謝申し上げます。また、3日間のプログラムに積極的に参加し、多くの御意見等を下さった受講者の皆様、事務業務を担って下さった事務局の皆様、研修場所を提供していただいた国際教養学部長と学部関係者の皆様方のご協力とご尽力により研修会が滞りなく実施できたことに心より感謝申し上げます。

引用文献

- 原田静香, 伊藤龍子, 湯浅美千代ら(2018). 第2回臨地実習指導者研修会報告. 医療看護研究, 15(1), 40-47.
- 中山登志子, 舟島なをみ(2015). 「教育ニードアセスメントツール-実習指導者用」の開発-実習指導者の役割遂行を支援する看護継続教育の実現に向けて-. 日本看護研究学会雑誌, 38(1), 73-83.
- 田村由美, 池西悦子(2017). 看護のためのリフレクションスキルトレーニング(第1版). 1-4. 看護の科学社.